

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所: 川崎市麻生区上麻生 6-40-1  
 柿生中学校内  
 電話: 044-988-0004 (柿生中学校)  
<http://www.kakio-kyodo.com>  
 第72号

## 川崎の旧中原街道の姿を探る



中原街道は、東京都と神奈川県を斜めに横断する道路で、古代から中世にかけては奥州道ではないかと言われています。そして後北条の時代には、小田原城から関東の各支城に連絡する軍用道としても使用され、「相州道」とも呼ばれていました。

1590年、後北条が滅び、徳川家康が江戸へ入場する際には平塚市

の中原を通る「中原街道」を利用したようです。川崎市中原区の語源はそこから来たものです。

やがて中原街道は東海道から並行して江戸から平塚を結ぶ、東海道の「脇街道」として経済的な主要街道としての役割を担います。したがって道路の整備もかなり行われ、江戸期には直線化がかなり進んだものと考えられます。

川崎市内では上丸子から千年付近までは、道路が見事に直線化されており、それも江戸期には実現していました。

一方、千年から丘陵地の野川方面にかけては、現在では道路拡張が行われ整備されていますが、現中原街道を縫うようにして、かつての旧道の姿があらここにることができます。

まず、千年交差点から野川方面を見ますと、昭和24年に切通し化した現在のバス道路が見えますが、その右側に小さな道が見えます(地図・写真A)。これが江戸時代には難所と呼ばれたところで、道幅が狭く、急な上り坂となる「蟻山坂(ありやまざか)」です。江戸方面から集めてきた下肥(しもごえ=人間の糞尿)を大八車に乗せ、坂道を登るわけです。当時は舗装もしていませんので、道路に下肥をこぼしながら、蟻が行列するように登っていったのでしょう。中原街道を「こやし街道」といった意味が良くわかります。さらに登ると見える白い手すり付近が最頂部付近(地図・写真B)です。

今度は下に降り、バス通りを横断し、次の旧道(地図・写真C)に入ります。次に再度バス通りを横断して、能満寺方面への道(地図・写真D)につながり、途中で道が分かれます。

この旧道と思われるルート(地図・写真E)は明治13年の明治13年の迅速測図には明記されていませんが、途中、板碑等中世の石造物も見られます。これが旧道と結び付けられるかは判断できません。古い道であることは間違いなさそうです。

また地元の方で、地図・写真Fの道は旧中原街道であるとお話される方もいました。

中原街道は沖積平地では比較的直線に整備された道が多い反面、丘陵地では難所といわれるところが多く、旧・古街道の姿をそのまま残しているものも多いと考えられます。

(文:板倉)



写真A



写真B



写真C



写真D



写真E



写真F

## シリーズ

## 「麻生の歴史を探る」第42話

## 麻生の古道(3) 義経伝承道

小島 一也 (柿生郷土史料館相談役)

生田杵形山公園に麻生亀井城の表示がありますが、これは前項「亀井館」への方向を示したものです。このルートは多摩丘陵を縦断する尾根道で、その道筋にはいくつかの伝承があります。

その一つが「義経伝承のルート」で、これは菅の寿福寺～高石の二枚橋～現百合ヶ丘の鍋ころがし～弘法の松～山口台～そして亀井城に至るものです。稲毛三郎が杵形、小沢城を築いたのが養和元年(1181)頃と言われ、その頃、義経・弁慶も寿福寺詣りをしていますので、義経主従は杵形の城を訪れていたかもしれません。

亀井の館には“馬の証文”の逸話があり、それは、大国魂神社(六所社)に頼朝の名代が参賀したとき乗馬が病に倒れ、弁慶が急いで麻生亀井の館から大栗毛を取り寄せ、亀井六郎に借り証文を書いたとするもので、六所社ではこれを木版刷りにし、馬の災厄除けにしたそうで(稲毛郷土史)、亀井館跡にはいまも厩舎、馬場と覚しきところが見受けられます。

杵形への道はこの馬場跡と思われるところから幅6尺(1.8m)ほどの尾根道が現在のおっ越山公園まで今も残っています。その道筋はさらに真福寺と上麻生間の稜線を弘法の松に向かっていました。現柿生中学校下のバス路線道は

昭和53年に切通しとなりましたが、それまでは川崎市内唯一のトンネル“柿生隧道(昭和52年開通)”があり、その上を横切る形で尾根道が続いていました。そこにはかつて“下駄切り坂”と呼ぶ真福寺村と上麻生村を繋ぐ尾根越えの難儀な急坂道があって、この地方が谷戸と谷戸を結ぶ交通に苦労があった事をうかがわせています。



鶴亀松二世

これから先、日光台、山口台、勸銀土地の造成はその道筋を無くしてしまいました。だが開発に伴う遺跡調査は縄文時代以来この地に人が住み、平安、鎌倉、室町とそれなりの村の文化があった事を証明しています。この山口台の道筋には“中巳谷戸”と呼ぶ綺麗な清水が湧き出る谷戸があったそうです。中巳とは陰暦3月中旬の巳の日のことで、その昔、平安貴族の間で清水で身を浄め盃を傾ける“曲水の宴”があったことからその名が付いたと伝承されます。この谷戸は後の津久井往還に接し、大坂と呼ばれた長い坂道(まきば生花前交差点より勸銀土地に向かう坂道に面影があります)があって、弘法の松に向かってそこを登っていくと、お屋敷台と呼び、上麻生村の領主、旗本三井万三郎の屋敷が置かれ、その峠にはお茶屋がありました。現在、送電鉄塔があって開発を免れ、それと思しきところを見ることができます。一方、真福寺側には広い谷戸田に沿った里道(現日光、吹込)が弘法の松に向かい、そこに“鶴亀松”と呼ぶ2本の相生の松がありました。鶴松は天空にそびえ、亀松は地を這う太い松でしたが、昭和16年姿を消しています(現鶴亀松公園に二世あり)。この鶴亀松の道は山口台を横断、大坂(津久井道)と結んでいます。



弘法の松跡

この山口台の道筋には“中巳谷戸”と呼ぶ綺麗な清水が湧き出る谷戸があったそうです。中巳とは陰暦3月中旬の巳の日のことで、その昔、平安貴族の間で清水で身を浄め盃を傾ける“曲水の宴”があったことからその名が付いたと伝承されます。この谷戸は後の津久井往還に接し、大坂と呼ばれた長い坂道(まきば生花前交差点より勸銀土地に向かう坂道に面影があります)があって、弘法の松に向かってそこを登っていくと、お屋敷台と呼び、上麻生村の領主、旗本三井万三郎の屋敷が置かれ、その峠にはお茶屋がありました。現在、送電鉄塔があって開発を免れ、それと思しきところを見ることができます。一方、真福寺側には広い谷戸田に沿った里道(現日光、吹込)が弘法の松に向かい、そこに“鶴亀松”と呼ぶ2本の相生の松がありました。鶴松は天空にそびえ、亀松は地を這う太い松でしたが、昭和16年姿を消しています(現鶴亀松公園に二世あり)。この鶴亀松の道は山口台を横断、大坂(津久井道)と結んでいます。

この弘法の松は、高石村、上麻生村の境松で、弘法大師の伝説で知られますが、往時から交通の要所でした。明治14年版の地図を見ると、この地点から高石(追分)、生田(長沢)への道が太線で示され、さらに他にも点線(里道)があます。この太線の尾根道は伝承通りの鎌倉道ではなかったかと思われ、後に江戸道(津久井往還)となりますが、海拔100m余、展望絶佳のこの地(現弘法の松公園)は、城郭に代わって戦ごとに人馬が屯したのではないのでしょうか。

この弘法の松は、高石村、上麻生村の境松で、弘法大師の伝説で知られますが、往時から交通の要所でした。明治14年版の地図を見ると、この地点から高石(追分)、生田(長沢)への道が太線で示され、さらに他にも点線(里道)があます。この太線の尾根道は伝承通りの鎌倉道ではなかったかと思われ、後に江戸道(津久井往還)となりますが、海拔100m余、展望絶佳のこの地(現弘法の松公園)は、城郭に代わって戦ごとに人馬が屯したのではないのでしょうか。

この弘法の松は、高石村、上麻生村の境松で、弘法大師の伝説で知られますが、往時から交通の要所でした。明治14年版の地図を見ると、この地点から高石(追分)、生田(長沢)への道が太線で示され、さらに他にも点線(里道)があます。この太線の尾根道は伝承通りの鎌倉道ではなかったかと思われ、後に江戸道(津久井往還)となりますが、海拔100m余、展望絶佳のこの地(現弘法の松公園)は、城郭に代わって戦ごとに人馬が屯したのではないのでしょうか。

参考資料:「川崎市史」「稲毛郷土史」「歩け歩こう麻生の里」「フランス式彩色地図」

## シリーズ 黒船来航

## 開国秘話 (8)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

## ◆日米交渉の開始◆

2月13日に江戸湾に現れたペリー一行と幕府の間で、先ずは、正式交渉の場をどこにするかで予備的な交渉が行なわれました。この予備交渉がまとまり、横浜村を正式交渉の場とすることで、双方の合意が成立します。こうして、幕府が横浜村に用意した仮設の応接場に、ペリー一行を招いて、本交渉が始まったのは、3月8日のことでした。

ペリー一行は、3月8日の昼少し前、横浜村の仮設応接場(ペリー側は条約館と命名しています)に案内されました。ペリー自身にとっては、前年に続く2度目の上陸でした。仮設の大広間には、5人の応接掛が着席して、ペリー一行を待っていました。

林大学頭(11代復齋)、井戸対馬守、伊沢美作守、鶴殿民部少輔らの5人です。大勢の従者、番の与力・同心などの侍、通訳も侍していました。

双方が席に着いたところで、ペリー艦隊から祝砲が挙げられます。日本国皇帝の荣誉に21発、応接掛に17発の、38発でした。双方の顔合わせが済むと、本格交渉に先立ち、日本側が用意した歓迎昼食会が開かれました。応接掛は、昼食に300人分の献立を用意したのですが、アメリカ側の上陸者は446人でした。不足分を慌てることなく追加したので、日本側の対応力は見事なものでした。酒に吸い物と肴、それから本膳で、一の膳、二の膳と続き、最後の菓子まで大変な品数であったと、ペリー側の賛嘆しきった報告書が残されています。

食事が終ると、ペリーは懐からアメリカ側の条約案と大統領親書を取り出し、日本側の首席代表林大学頭に手渡しました。日付は1週間前の3月1日付け、漢文を成文とし、オランダ語訳がついていました。同封文書として、アメリカが清朝と結んだ望厦(ボウカ)条約の漢文版も添えられていました。

親書は大統領の考えを述べ、前回の来日後再度熟慮したが、やはり条約締結の時がきたと考え、記していました。幕府側は、早速アメリカ側の条約案を精査し、いくつもの矛盾点があることに気がきます。ここから、日本側がペースを握ります。

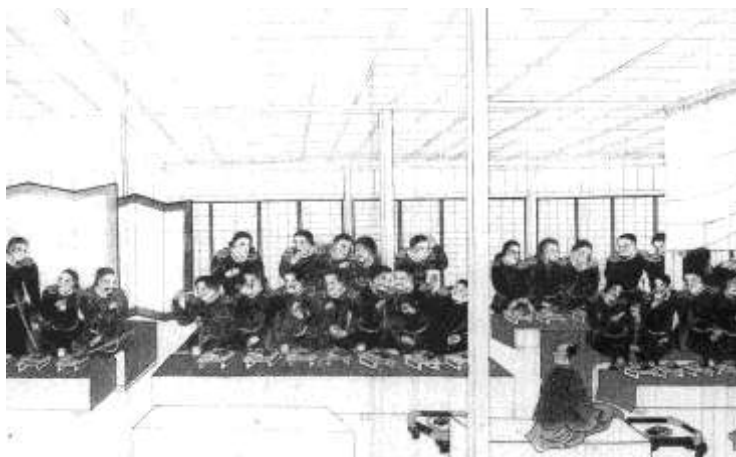
ペリーが、日本語を正文としようと考えて、断念したいきさつは既に記しました。中国語を正文としたのは次善の策ではあったのですが、欧文としないで漢文としたことによって、交渉のペースが日本側主導となってしまったことは、ペリーの誤算でした。アメリカ側の中国語即ち漢文の担当は、前回の来日にも随行したウィリアムズと羅森の2人です。これに対して幕府側には、漢籍に精通した精鋭が揃っていました。昌平坂学問所の林大学頭は、とりあえず20名の精鋭を選抜して、文書係として待機させていたのです。

米側の条約草案を受領した幕府は、すぐに米側草案と望厦条約とを比較しながら、条約草案の内容点検を進めました。米側草案は24ヶ条、それに対して望厦条約は34ヶ条からなっていました。文書掛は、米側草案が望厦条約の縮小版であることに注目し、両者を読み比べました。そこから米側草案に、いくつもの大きな矛盾があることに、すぐに気がきました。縮小版を作成する時の削除、書き換えの段階で起きた矛盾であろう事まで、見抜いてしまったのです。文書掛は、その矛盾に優劣をつけて並べ、応接掛に提出しました。そこには、最も大きな問題が、削除の原理がタイトルに反映されていないこと、即ち内容と形式が一致していない点にあることが、はっきりと記されていました。

ペリーは、日本との条約交渉を一挙に完成するのは難しいと考え、二段階方式を考えていたのです。第一段階は、国交樹立の一般的内容に留め、第二段階で通商に関する詳細な条約を結ぶつもりだったのです。ところが望厦条約は、イギリスがアヘン戦争の結果として清朝と結んだ南京条約に対して、アメリカが最恵国待遇を主張して結んだ条約でしたから、平和・親睦・通商の3要素を含んでいました。当然タイトルもそうなるようになっていました。条約案の漢文タイトルは、「誠実永遠友睦之条約及太平和好貿易之章程」となっていたのです。



ペリー一行の横浜上陸 左手が横浜応接所(現在は横浜開港資料館)



3月8日の日本側歓迎宴 松代藩士高川文筈の描いた絵巻の一部

(続)

### 平成26年度 柿生郷土史料館「友の会」会員募集

当館の運営費用は「友の会」会費で賄われております。多くの皆様のご支援が必要です。なにとぞ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。(現在「友の会」会員は160個人・団体)

- ◆会員の種類 ・一般会員(年会費 2000 円) ・賛助会員(年会費 3000 円) ・法人会員(年会費1万円)
- ◆会員の期間 ・平成26年4月1日～平成27年3月31日(1年間)
- ◆申込方法 ①セレサ川崎農協東柿生支店に振り込んでいただく
  - ・現会員の方:ご自宅、団体に振込先記入済みの振り込み用紙を郵送します
  - ・新規にお申し込みの方:振り込み用紙に下記の振込先をご記入の上お振り込みください
 (金融機関)セレサ川崎農協 東柿生支店 (振込先)柿生史料館代表 久保倉良三 (口座番号)普通 0013802  
 なお併せて、ご住所を090-4431-9778(板倉)まで連絡のほどお願いいたします
- ②直接史料館へ開館日にご持参いただく(会費、氏名・住所・電話番号、会員の種類を同封ください)
- ③お近くの史料館支援委員に直接お渡しいただく(内容は同上)
- ◆その他 ・会員期間は年度単位ですが、随時受け付けさせていただいております。

\*お願い:すでにお振込みにて新規申し込まれた方、ご住所を上記板倉まで連絡ください。

### 柿生郷土史料館開館日のご案内

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日

**5月** 4・11・18・25日(毎日曜日)

**6月** 7・14・21・28日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時

### 柿生郷土史料館5～6月の催物ご案内 (入場無料)

#### 第7回 実物のミニ歴史資料展

#### 明治6年 太陽暦に替わった日

展示品:「明治5年 太陰暦」「明治6年 太陽暦」  
「江戸期 伊勢暦」「改暦辨(福沢諭吉著)」  
他

期間:4月26日(土)～6月28日(土)  
(開館日:4月26日・5月⇒日曜日・6月⇒土曜日)

内容:明治5年12月3日を明治6年1月1日とした太陽暦への改暦の意味を考えます。



明治5年の太陰暦(左)と同6年の太陽暦案内書「改暦辨」

#### 第46回 カルチャーセミナー

#### 天正遣欧少年使節団と世界 ～伊東マンショの肖像画が語るものとは～

講師:小林基男氏(桐蔭大学講師・柿生郷土史料館支援委員)

日時:5月25日(日) 13時～15時

会場:柿生郷土史料館特別展示室

内容:最近イタリアで、1582年に日本からヨーロッパに派遣された天正少年遣欧使節団の一員である伊東マンショ(本名:伊東祐益)の肖像画が発見された。伊東マンショを始め、他の3名の少年使節団の人物像を浮き彫りにしながら16世紀後半の世界の姿と、その時代を振り返ってみたい。



伊東マンショの肖像画

#### 訃報

謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます

- 箕輪敏行氏 (1月18日逝去:川崎天文同好会創設者)
- 村上直氏 (2月10日逝去:法政大学名誉教授)

柿生郷土史料館カルチャーセミナーの講師として本館にお越しいただき、郷土史にかかわる貴重なお話をいただき、さらに郷土史資料も寄贈して下さいました。お二人の温厚で優しいお人柄が懐かしく想いされます。大変ありがとうございました。